
本当はあたしが.....。

ぴーせる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本当はあたしが……。

【Zコード】

Z2171M

【作者名】

ぴーせる

【あらすじ】

どうして彼が……？ 打ちひしがれるあたしは、ただその場に座り込むことしか出来なかつた。

(前書き)

作品完成日：2007/02/12

あまりにも突然だつた。

激しく叩きつけられたような、耳の奥にまで重く響く荒々しい音。

衝撃音。

それが鼓膜、そしてあたしの心にも衝撃をもたらせた。

消えてしまった。

彼は、あたしの目の前からいなくなってしまった。

「う、嘘……」

その事実があたしの根幹を揺さぶり、指先が震える。

無我夢中で駆け寄つた。

捻つた足の痛みを感じてる余裕などない。

ただただ、あたしは彼の元へと駆け寄つた。

「ねえ、どうしてー！」

叫ぶ。

呼び掛ける。

しかし返つてくるのは微かな声だけ。

「ひ、とひめく苦しそうな声だけ。

「ねえ、どうして……」

どうして返事してくれないの……？

すがりつく。

奪われてしまつた悲しみに、あたしはすがりつくしかない。

酷すぎる……。

こんなのは、あんまりだ。

あたしは運命を呪つた。

それはあたしの不注意から起きた事故。

あたしが起こしてしまつた事故。

でも、不可抗力だった。

(なんで彼が……)

転んでしまつた。

あたしは、ただ転んでしまっただけ。

そんなの、日常ではよくあることだ。

あたしはねむりいりゅうい。

だからりょく転ぶ。

足元に注意しないから。

気持ちが先走ると、周りなんて気にしてられないかい。

今回のことだって、そうだった。

あたしは駆け足に走った。

それだけだった。

たつたそれだけのことだったのに、あたしは足にかかる障害に気付かず、そのまま前のめりに倒れて……。

あの時の彼は速かつた。

いつもなんびつとしていた彼からは想像も出来ない速さ。

まるで風のように感じたそれで、彼はあたしの横を抜けて

嗚呼、ああ……。

悔やんでも悔やみきれない。

恨みでも娘みきれない。

神様はどうしていつも無情なのだろう。

あたしが一体何をしたと云つたのだ。

彼はどうしてあんなことをしてしまったのだ。

不条理。

やりきれない思いを、あたしは胸に抱えるしか出来ない。

悲しみと悔しさがあたしの心を支配する。

「どうして先にこつこつとおひのうーー？」

「ひえきねずこ込み上げてくる。

奥歯を歯み締める。

でも、我慢できない。

あたしはただその場に座り込むことしか出来ない。

彼は田の前にいる。

でも届かない。

こののが分かるのに、今のあたしでは手も伸ばせない。

とても遠い。

あたしには届かない場所。

あたしには何の力もない。

何も出来ないただの人間。

だからこそ出来もしない」とを願う。

願ってしまう。

……時を戻したい。

せめて彼が動く前。

ほんの数分前でいい。

だから、だから戻して……。

後悔。

はちきれんばかりの思いがあたしを急かす。

きつと溢れてしまう。

怒り。

握る拳に爪が食い込む。

充血する。

力の入りすぎた指先が、今は真っ白になる。

ショックと悲しみと後悔と。

それらを超えて、あたしは怒った。

彼に対して怒りを感じた。

何故！

どうして！

疑問ばかりが弾ける。

我慢なんて、出来なかつた。

「早く出でよ！ 漏れちゃうよー。」

彼のトイレストфиксでもなく長いのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2171m/>

本当はあたしが……。

2011年1月25日21時38分発行